

## 「北山の風」

今帰仁村立兼次小学校 4年生 <sup>なかもと</sup>仲本 <sup>あい</sup>愛

私は、今帰仁に住んでいます。世界遺産の今帰仁城しがあるところです。気軽に遊びに行ったり、学校でも総合学習の調べ学習をしたり、ボランティア清そうもしたりしています。今帰仁城しは桜の木や、石づみ、石だたみがとてもきれいでちょう上から見下ろすと青い海が広がり、桜がさくころにはピンクとブルーの絶景を見ることができます。

これまで今帰仁城しの歴史についてはあまり知りませんでした。でも、五年前に現代版組おどり『北山の風』に私も、去年入り、げきやおどりを通して歴史がわかってきました。例えば六百年前、琉球は北山、中山、南山に分かれていたこと、北山の王、はん安知とその副将本部大原のこと、今帰仁城しは、

「天下の名城」と言われていたこと、などです。セリフの中には「なんこうふらく」とか「ぬかるでないぞ！」などむずかしい言葉もあります。中学生、高校生の役者たちは表情や声色を工夫し、役になりきって演じます。私は、女性アンサンブルとして場面ごとに衣装も変えて、おどっています。

北山の風はもう一つの歴史も教えてくれます。それは沖縄戦が終わった次の年の昭和21年に、今帰仁小学校の教頭先生をしていた新城紀秀先生という方が『北山』というきやく本を書き教え子達と演げきをしたそうです。戦争で心も体もきずつき、戦後も大変な苦労があった時代に、ここ今帰仁でこのぶ台が生まれたのだそうです。これがどんなに人々をはげまし、生きるきぼうにつながったかと思うと演げきの力は本当にすごいと思います。そして、当時の教え子たち大人になって平田大一さんに働きかけ、五年前にふっかつ公演が出たそうです。

今では、年に2・3回の公演や20回以上のイベント出演をしています。特に今帰仁城しの野外ステージで行う公演にはたくさんの方がかけつけてくれます。地元の人はもちろん、観光客や外国人もとてもよろこんでくれます。フィナーレのあと、指ふえや拍手が鳴りやまない中私は思ったのです。(69年前もこんな感動につつまれていたんだらうな。私ももっと勉強して今帰仁のこと、沖縄のことを伝えていくよ。こんな城あとがあるよ。こんな歴史があるよ。戦後の希望になったよ。) てね。今私にできることは、足元を見つめて、一生けん命けい古をして、感動のぶ台を作っていくことです。

♪ 未来へとどけ 次代をこえて じょう熱のうた 北山の風